

【鹿児島県日置市】

日置市 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとする I C T 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和 3 年 1 月）等の内容並びにこれらに引き続く政府の議論等では、I C T の活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を一体的に充実し、子供たちの資質・能力を育成することを求めている。

上記内容を踏まえて、本市では、「郷土ひおきの資源を生かした『風格ある教育』の推進」を基本目標とした「魅力ある学校づくり」を一層推進するとともに、子供たちが持続可能な社会の創り手として成長するために、1 人 1 台端末を効果的に利活用し、一人一人の児童生徒の理解度や学習ペース等の実態に応じた学習計画に基づく学びの具現化を目指す。

また、「魅力ある学校づくり」の充実を図るため、重点事項として掲げている「教育活動の工夫改善」、「人権教育の推進」、「特別支援教育の充実」、「学校教育のデジタル化推進」に向けた取り組みを進め、通信ネットワーク環境等を一体的に整備するとともに、端末の効果的な利活用を図る。

2 G I G A 第 1 期の総括

国の G I G A スクール構想を踏まえ、令和 2 年度に本市全児童生徒分に 1 人 1 台端末及び全学校における通信ネットワーク等を整備した。そして、学校現場における教科や学習場面に応じた学びのツールとして 1 人 1 台端末の日常的な利活用を図ってきた。

授業における 1 人 1 台端末の活用については、調査活動や学習のまとめ、ドリル計算ソフトによる演習等を中心に定着しつつあるが、個の考えをまとめ、情報を共有したり、比較・検討したりするなど学習者主体の授業改善につながる活用を今後も強力に進める必要がある。例えば、端末を積極的に家庭へ持ち帰らせ、ドリル課題やレポート作成等を家庭学習で取り組ませることで、児童生徒の学習意欲が維持・向上できるよう努める。

運営支援については、事業者に委託し、ネットワークトラブル等の早期解決や各学校への派遣等、児童生徒の学習環境に支障が生じないよう努めてきた。

しかし、タブレットの恒常的な容量不足による不具合や故障、破損等によるトラブルが多数見受けられた。このような場合は、基本的には学校保管の予備機で対応したが、それも対応できないときは、市教育委員会管理の予備機を充てるなどして対応してきた。

また、一部の学校では、ネットワークの接続が不安定で端末操作ができないという事象も起きている。

そこで、委託業者と連携しながら各学校の受信状況を点検したり、児童生徒の端末の空き容量を増やしたりするなどの対応をとってきた。

3 1人1台端末の利活用方策

本市では、現在でも恒常的な容量不足等に起因する諸問題が発生しており、日常的な授業等の利活用に支障が出かねない状況である。その解決を考慮した手立てとして、令和7年2月から、より高度なICT環境の充実を図ることで1人1台端末環境を維持できるよう、全児童生徒分に予備機を合わせた1人1台端末の更新を行う。

次に、委託業者によるGIGAスクール運営支援を継続し、端末を日常的に活用しながら「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学習」の実現に向けた更なる授業改善をめざす。

各学校では、1人1台端末の日常的な利活用を更に促進するとともに、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援を積極的に行う。その実現のために、多様な場面での活用を検討する。また、児童生徒が端末を活用して「過去の記録や自分の姿を振り返ること」や「自分の考えをまとめ、発表・表現すること」、「教職員や他の児童生徒とやりとりすること」などを行うことで自分自身の学習状況を適切に判断・検証できるようにする。そして、それらの教育活動を通して今の自分に望ましい学習スタイルや学習方法を試行錯誤しつつも身に付けていくことで、個々の学びの深まりや広がりにつながるようにする。